



令和7年度関東地区福祉研究発表会 福祉研究部門 研究趣旨



神奈川県立二俣川高等学校

私たちは、きょうだい児が様々な悩みを抱えていることを知り、その悩みを人に話せるような場がもっと必要なのではないかと考え研究を進めました。実際に、きょうだい児へのアンケートおよびインタビュー調査により当事者の率直な思いを知り、きょうだい児支援の会へのインタビューを通して、きょうだい児支援の現状と課題を把握した結果、話をする場が必ずしも必要なのではなくきょうだい児が抱える些細な思いを日常の中で身近な人に話せる環境が必要であると考え、環境づくりの具体的な方法について考察しました。今回は、話を聞く側となる周りの人が、きょうだい児の理解を深められるように電子マンガを作成し、校内で発信しました。

埼玉県立滑川総合高等学校

授業より着想を得た課題解決型アナログゲーム「しあわせのかたち」についての発表です。主人公カード、しあわせカード、専門職カードの3種類を使用します。主人公カードは麻痺や車いす、筋力低下などの身体状況の設定カードです。しあわせカードは温泉に行きたいなどの願望の設定です。主人公の望みを叶える為に専門職がどのような役割を担えるかを考えるゲームです。

千葉県立松戸向陽高等学校

私達は昨年「住宅団地からみる身近な福祉」というテーマで研究を行いました。「高校生にできること」について明確な答えを導き出すことができませんでした。そこで今回も常盤平団地を題材に継続研究を行うことにしました。今回のテーマとして「高校生×自治会～常盤平団地の今から“これから”を考える～」とし、自治会の役割や機能について文献調査を行うとともに、常盤平団地自治会、地域包括支援センターへのインタビュー、高校生へのアンケート調査、自治会主催のイベントへの参加をしたことで見えてきた課題や意義について考察し、高校生にも自治会活動への参加は可能なのか、またその活動にはどんな意味があるのか明らかにしました。

群馬県立伊勢崎興陽高等学校

そうだったんだ！～色覚多様性～

「色ってみんな同じに見えるの？見づらい色ってあるよね」私たちは、何気ない言葉から疑問をもち「色」について調べていこうと思いました。調べていくうちに色の見え方の違いについて考えるようになり、その中で私たちができることはないかを調べ、研究しました。多くの人に知ってもらうことで、みんなが生活しやすい社会に役立てることができたら嬉しいです。ぜひ他人事とは思わず身近にもいるんだなと思いながら聞いて下さい。

栃木県立佐野松桜高等学校

内部障害がある方は、障害があることを周りから理解されにくく、苦労することが多いとされています。そこで私たちは、内部障害・内臓疾患の存在を示した「ハート・プラスマーク」の認知度を高めることで、内部障害のある方にとってより良い社会になると考えました。研究では、認知度を高めるための試みを行い、その効果を検証し、今後の方向性について模索しました。